

令和6年度受水事業所施設見学会 質疑概要

日時：令和6年12月4日（水）午後1時30分から午後4時30分

場所：東部水道事業所、送水管理センター及び八尾ポンプ場

- Q1. 八尾ポンプ場は非常用発電設備により、停電時でも6時間は配水が可能であると伺ったが、もし6時間より長い停電が起こった時は次の対策があるのか。
- A1. これまでの停電実績から、停電が起こった場合でも4時間程度で復旧が可能であると想定しています。また、以前に企業団が受水事業所に対して行ったアンケートでは、地震等の大規模災害が起こった場合はほとんどの受水事業所が稼働を止めるとの回答をいただいたことも踏まえまして、非常用発電設備の配水可能時間を6時間に設定しています。
- Q2. 送水管理センターパンフレット1頁の給水量（水道用水供給事業）と人口（大阪市を除く府内の給水人口）の推移のグラフで、1990年頃から人口はほぼ横ばいになっているのに対し、1995年に給水量が頭打ちしているのは何故か。
- A2. 過去の渇水による節水意識の高まりと節水機器の普及によるものと考えています。
- Q3. 八尾ポンプ場を見学した際、設備の省エネルギー化について話を聞いたが、効率化による経営改善の状況については 毎年度、アニュアルレポート等の将来の財政収支の見通しに反映して示されるのか。
- A3. 将来の財政収支の見通しは、大阪広域水道企業団将来ビジョン及び大阪広域水道企業団経営戦略2020-2029（以下「計画」という。）で公表しています。
アニュアルレポートは1年間の事業活動や経営状況、企業団の取組を報告する年次報告書です。
効率化の取組や物価上昇による費用の増減を反映した財政収支見通しは、計画を見直した際に公表しています。なお、毎年度の予算編成においては、実績を踏まえて所要額を見積っています。
- Q4. 工業用水道の概要についての資料1ページ目の処理フローの図で、沈でん池で発生した濁り成分は浄水発生土に凝縮され、その際に分離した排水は再度、凝集剤が入る着水井に戻り、浄水フローを経るというサイクルになっているのか。
- A4. そのとおりです。